

記者発表資料

**融雪期の利根川の余剰水を活用した結果、
荒川貯水池の貯水量が回復！！**

東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会で策定した「渇水対応行動計画」(令和3年4月12日改定)に基づき、渇水への備えに万全を期する観点から、新たに追加した対策である「奥利根流域における融雪期の利根川余剰水※を活用し、荒川貯水池の利水容量への貯留」に努めた結果、貯水量が回復しました。

※余剰水とは、融雪により上流ダム群で貯留しきれず、かつ下流の水利使用に支障を与えない流況を想定

4月13日～22日の間に約511万m³貯留し、23日0時現在、貯水量977万m³(貯水率96%)まで回復しました。

今後も、引き続き気象状況を注視するとともに、水不足が生じないうよう、ダム等の供給施設のきめ細やかな運用を行っていきます。

東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対応行動計画

URL: https://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/river_shihon00000397.html

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
都庁記者クラブ、千葉県政記者会、神奈川県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

【東京オリパラの行動計画に関すること】

国土交通省関東地方整備局 (TEL)048-601-3151 (FAX)048-600-1379
河川部河川環境課長 あかみち しゅうじ 赤道 正悟 (内線3651) 建設専門官 つちや ひでき 土屋 英樹 (内線3652)

【荒川貯水池に関すること】

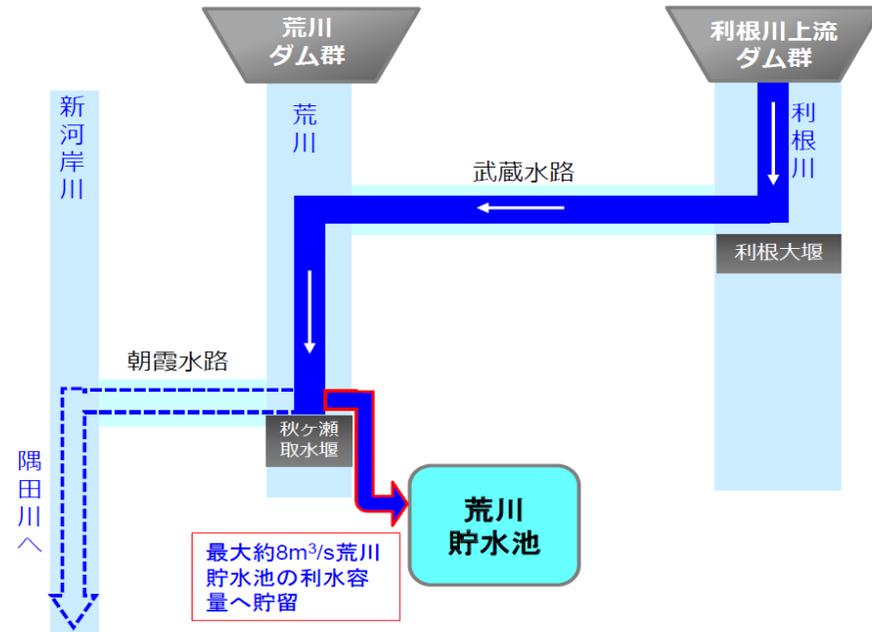
国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所
(TEL)049-246-6359 (FAX)049-241-5438
副所長 よねざわ ひろき 米沢 拓繁 調査課長 あまい ようへい 天井 洋平

融雪期の利根川余剰水を活用し、荒川貯水池の利水容量への貯留

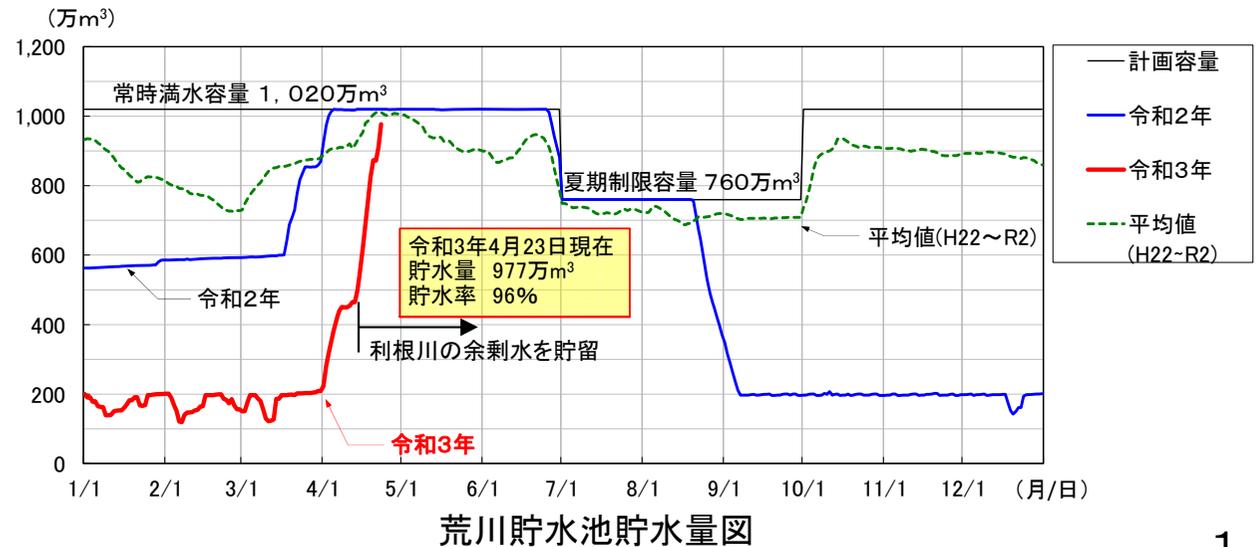
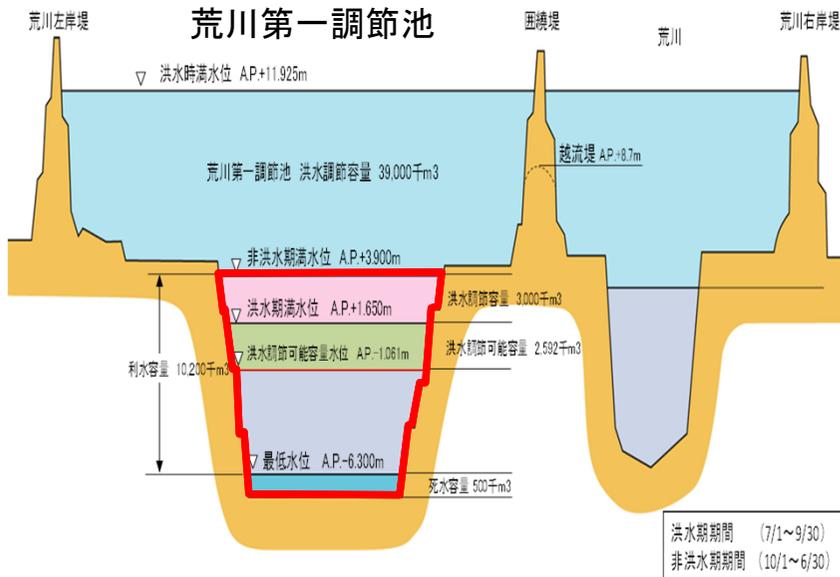
- 奥利根流域における融雪期の利根川余剰水を活用し、荒川貯水池の利水容量へ貯留。
- 4月13日～22日の間に約511万 m^3 貯留し、貯水量977万 m^3 （貯水率96%）に上昇中（23日0時現在）。



・余剰水のうち最大約8 m^3/s を荒川貯水池の利水容量へ貯留



最大約8 m^3/s 荒川貯水池の利水容量へ貯留



荒川貯水池の利水容量への貯留状況



4月12日14時現在
貯水位 AP-1.17m
貯水量 466万m³
貯水率 46%



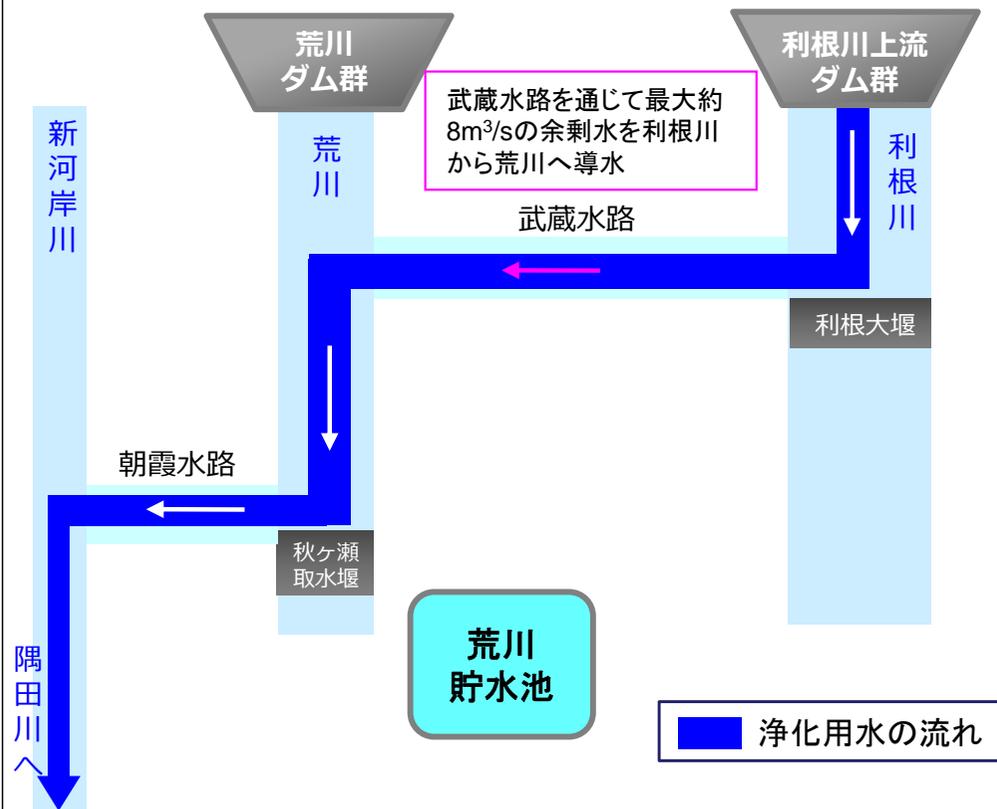
4月22日10時現在
貯水位 AP+3.21m
貯水量 940万m³
貯水率 92%



- 武蔵水路等の新たな運用(融雪期の利根川の余剰水を活用し、荒川貯水池の利水容量へ貯留)
 - 奥利根流域における融雪による余剰水※が期待される場合、武蔵水路の浄化断面を利用し、荒川貯水池の利水容量への貯留に努めます。
- ※余剰水とは、融雪により上流ダム群で貯留しきれずかつ下流の水利使用に支障を与えない流況を想定。

平常時における余剰水の運用

・融雪等により利根川に余剰水がある場合、武蔵水路等を通じて浄化用水を通水



オリンピック・パラリンピックに備えた余剰水の運用

・余剰水のうち最大約8m³/sを荒川貯水池の利水容量へ貯留

